

ハクチョウと新潟



2023年2月5日 ラムサール条約湿地自治体認証記念シンポジウム

ロシア・ツンドラ地帯
(シベリア)

4000Km

新潟



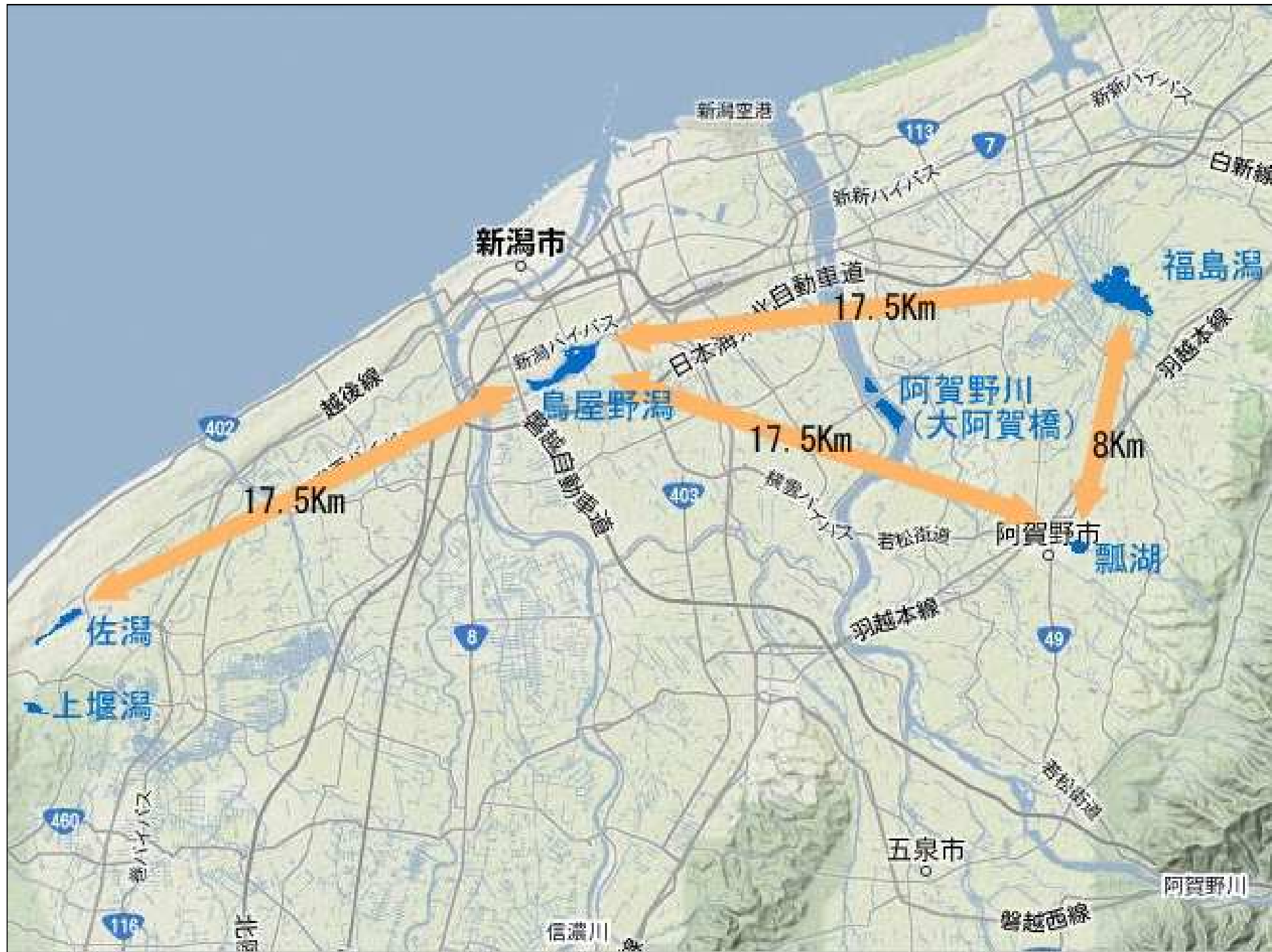


9月



コハクチョウのおもな渡りのルート







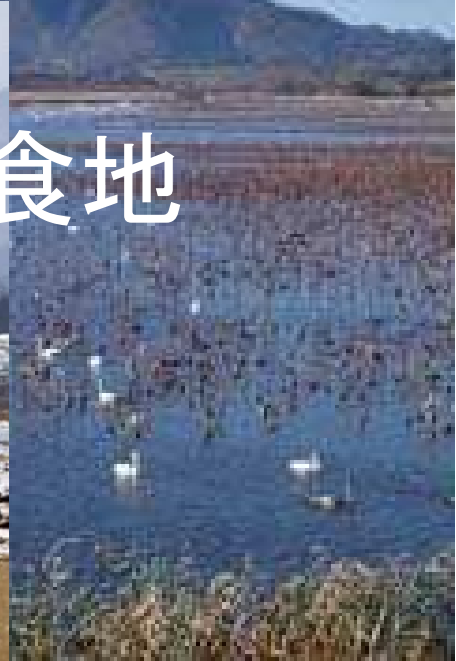
鴻・川 安全なねぐら



鴻・川 安全なねぐら



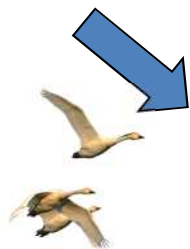
田んぼ 採食地



潟・川(ねぐら)



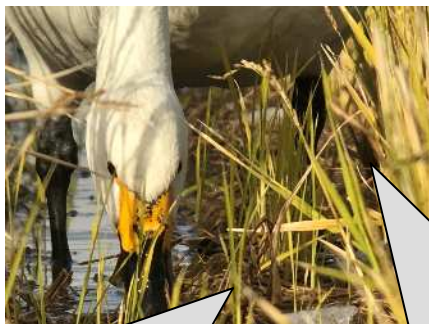
朝



田んぼ(レストラン)



夕方



落ちもみ



二番穂



草と水(雪代)



潟・川 安全なねぐら

田んぼ 採食地

越後平野は
ひとつの
大きな湿地



コハクチョウ飛来数

新潟県は全国の42% 日本一

環境省 全国ガンカモ類の生息調査より 2022年まで10年間平均
日本に約4万羽、新潟県に42%の1万7千羽が飛来し日本一です。



福島潟・阿賀野川・鳥屋野潟・佐潟のある

新潟市は 市町村で

日本一

新潟県水鳥湖沼ネットワークの活動

個人、団体、行政など有志により2000年から始めた活動です。毎年10月から3月の半年間、毎週金曜日早朝(24回)に各地でハクチョウ、ガン類の同時カウント調査です。

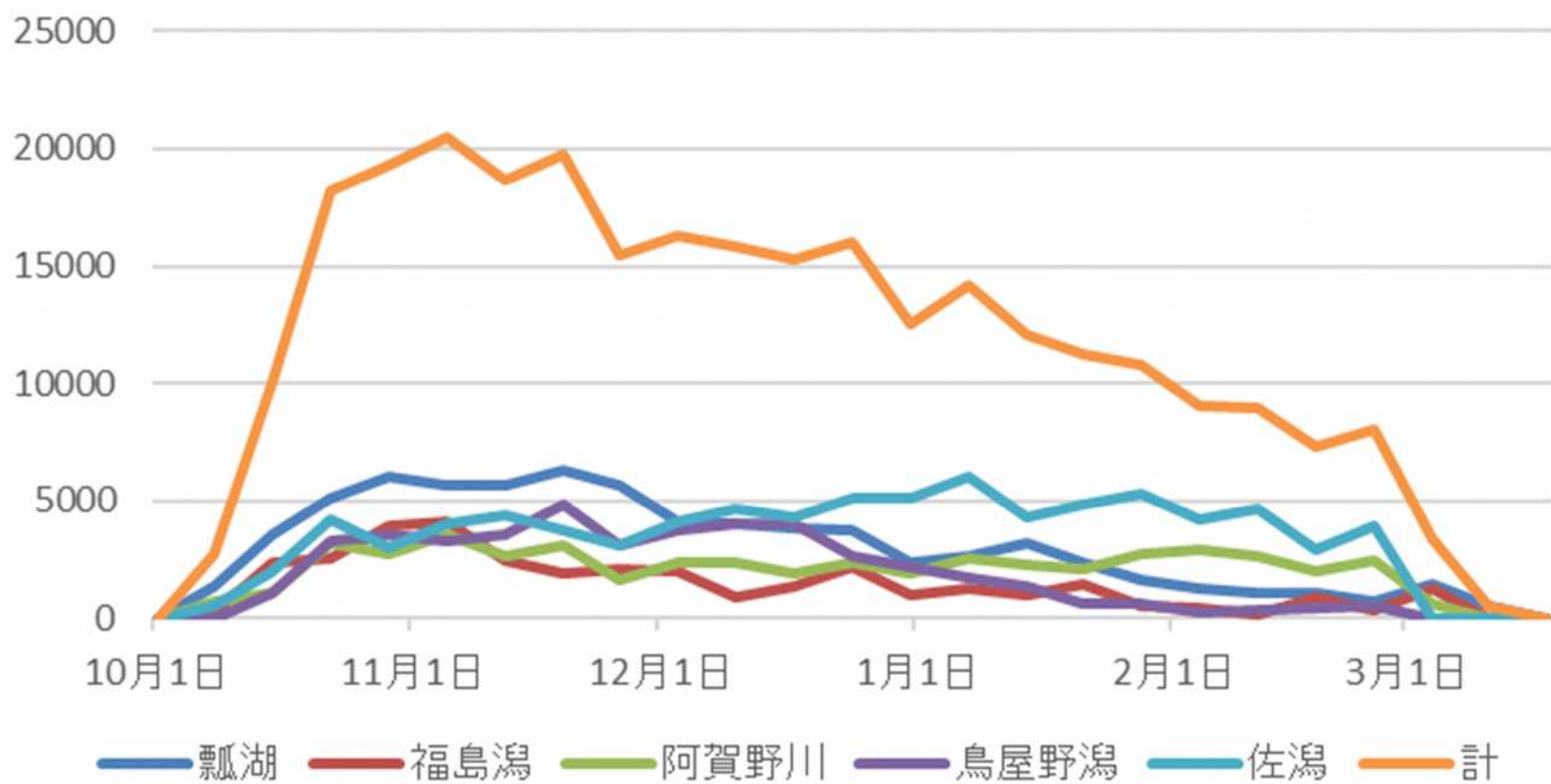


調査地

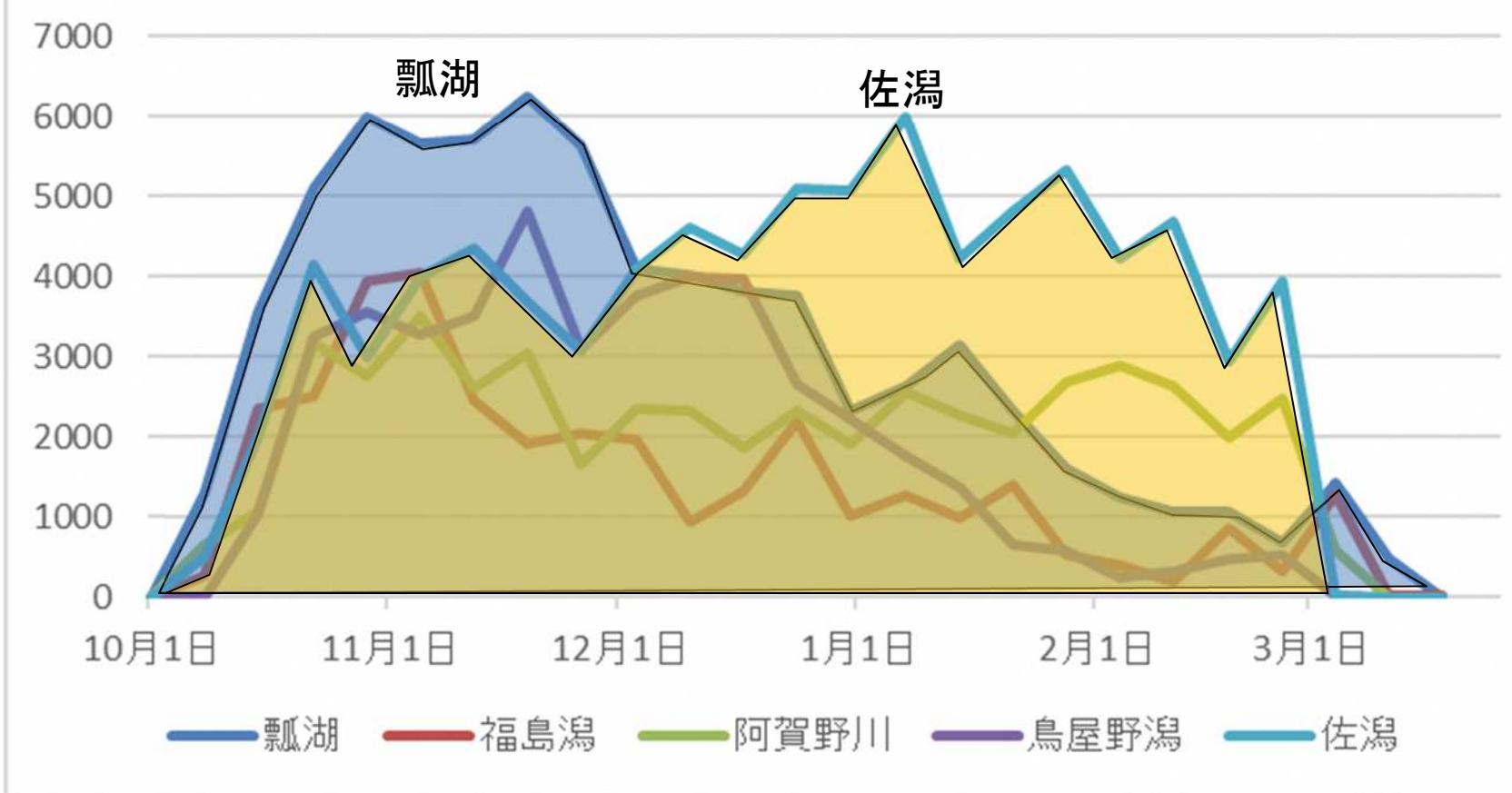
調査者(2022年度現在)

阿賀野市	瓢湖	瓢湖の白鳥を守る会・阿賀野市公園管理事務所
新潟市	福島潟	水の駅「ビュー福島潟」
新潟市	阿賀野川	田村智恵子・小林博隆
新潟市	鳥屋野潟	岡田成弘・本田茂夫・山際圭子(日本野鳥の会新潟県、鳥屋野潟公園)
新潟市	佐潟	佐藤安男・向井喜果・村上真由美、佐潟水鳥・湿地センター

2021年度 ハクチョウ推移 計



2021年度 ハクチョウ推移



越後平野の中で積雪・氷結による移動も



積雪となる1月～2月

↑↑↑

まだ雪の少ない11月～12月



潟や川があり田んぼが広がる水環境
ひとつの大きな湿地

コハクチョウやオオヒシクイに選ばれた越後平野・新潟